

【全学共通教育センター・人間科学教育科目】令和6年度 FD 活動の「年間報告」

1. 学部独自の FD 活動についての報告（*は必須項目）

(1) 公開授業・ワークショップ

※公開授業と公開授業に関するワークショップが対象

①公開授業：

- ・科目
- ・担当教員
- ・実施日時/場所
- ・*参加人数 名（職員・学生が参加した場合は内訳を記載してください）

②ワークショップ：

- ・実施日時/場所※公開授業と日時/場所が異なる場合のみ記載してください
- ・*参加人数 名（職員・学生が参加した場合は内訳を記載してください）
- ・ワークショップでの意見交換内容

(2) その他研修会等

※(1)以外の学部 FD として実施する研修会が対象（人権研修会を除く）

・テーマ

1. 数理・データサイエンス・AI 教育プログラムリテラシーレベル担当者会議（授業運営，意見交換，自己点検評価等）
2. 数理・データサイエンス・AI 教育プログラム応用基礎レベル担当者会議（授業運営，意見交換，自己点検評価等）

- ・実施日時・場所：3月25日に京都産業大学において（オンライン実施）
- ・実施内容：令和6年度に向けて授業の担当者会議を実施
- ・参加予定人数11名（職員・学生が参加した場合は内訳を記載してください）

2. 総括（今年度の学部 FD を通して得られた気づきや見つかった課題等）

令和6年度の取り組みは以下のものであった。

テーマ：令和7年度実施に向けた，人間科学教育カリキュラムの再編準備作業。

令和6年度の取り組みについては，令和7年度実施に向けた人間科学教育カリキュラムの再編作業をさらに推進することとする。具体的には，①各学部における履修規定の確定，②カリキュラム編成に伴う科目名称の変更といった，細部の調整作業に取り組む。学部における改組等に伴う申請に必要な事項について不備がないように作業を進めることが肝要であると考えている。また，令和4年度実施の「データ・AI と社会」関連プログラム，令和5年度から実施した「アントレプレナー教育プログラム」の検証（履修者数・教育効果等），および，令和6年度には，数理・データサイエンス・AI 教育プログラム応用基礎レベルのプログラムを実施した。

このような取り組みの結果，教養教育全体においては，「文理融合」を前提に，分野横断教育を基盤とした，新たなカリキュラムの令和7年度実施につながったと認識される。

したがって，現在開講している科目の見直しおよび時代の要請に応える科目の新設も視野に，今年度は本学の人間科学教育カリキュラムの実施準備に着手することによって，カリキュラム運営を全学（部）で支える体制強化を図ることができたと認識している。ただ，オンデマンド

授業の導入に伴い、履修者数の上限設定の変更等の検討が課題であるとともに、昨年度に引き続き、学習成果実感調査の回答率向上によって、学生自身の達成度評価をもとに、学修者本意の教育実現の必要性を認識している。

3. 次年度に向けての取り組み

(1) テーマ：令和7年度実施による人間科学教育カリキュラムのさらなる検討。

(2) 目 的：各学部における履修規定・科目名称の変更等を前提として、令和7年度実施に向けた準備を完了することとなったが、令和7年度では、文理融合教育・分野横断教育を基盤としたカリキュラム整備の方策について検討を重ねてゆく。

すなわち、令和5年度から開始したカリキュラムの編成作業は、令和7年度実施をもって完了したものではない。再編は途に就いたばかりであり、既存科目を再配置した14のテーマ毎の教育効果の検証によって、全学部の支援をもとに、人間科学教育カリキュラムの検討を続ける必要性認識してゆく。

(3) 期待する効果：各学部の支援を基盤とする、人間教育カリキュラムの重要性を全学的な共通認識として周知徹底するとともに、昨年度同様、学習成果実感調査の回答率向上によって、学生自身の達成度評価をもとにした、学修者本意の教育実現に寄与することが期待される。

※この内容は当該年度終了後、本学におけるFD活動の一環として、本学HPに掲載します。